

# さくらじまの

# 酒



特集「秋だ！親水公園に出かけよう！」	2.3
いるかの時間・あざらしの時間「アザラシのオスとメス」	4
ここがみどころ「1階：マングローブ水槽」	5
錦江湾のなかまたち「70.キュウセン」	5
アクアラボ「この海藻は何色？～海藻たちの色の不思議～」	6
情報休憩コーナー	6
「第30回国民文化祭・かごしま2015」開催記念	
特別展示「アートな海の生きものたち」	
いろいろやりました！夏のイベントアルバム	7
いおワールド通信	8

# 秋だ！親水公園に出かけよう！



## 親水公園は川遊びに最適！



69号では、鹿児島には自然豊かな川があり、いろいろな生きものがいることを紹介しました。しかし川岸は護岸に整備され、なかなか近くに降りることができず、学校でも安全のため川に近寄らないように指導することが多いと聞きます。近くに川が流れても、そこにすむ生きものは遠い存在になっているようです。

そこでおすすめするのが、豊かな水辺の自然を活かした親水公園です。鹿児島県内のあちらこちらに親水公園があり、夏休みに水遊びや、キャンプを楽しんだ人も多いのではないかでしょうか。

川への降り口や浅瀬をつくるなどの整備がなされ、しかもその水辺は自然の川の一部なので、生きものの観察に適した場所です。水遊びももちろん楽しめます、今度はぜひ生きものを探しに行ってみましょう。



## 親水公園にはこれを持っていこう！

### 水中メガネ



ゴーグルよりも水中メガネのほうが視界も広く明るいので、生きものを見つけやすく、おすすめです。新品はくもりやすいので、数回お風呂で洗うと良いでしょう。持ていなかつたら、プラケースで代用できます。



### プラケース

小さいものが1個あるだけでも楽しみが倍増します。からっぽのケースを水面にあてることで、水中メガネの代わりになります。また、捕まえた生きものを観察するにも最適です。

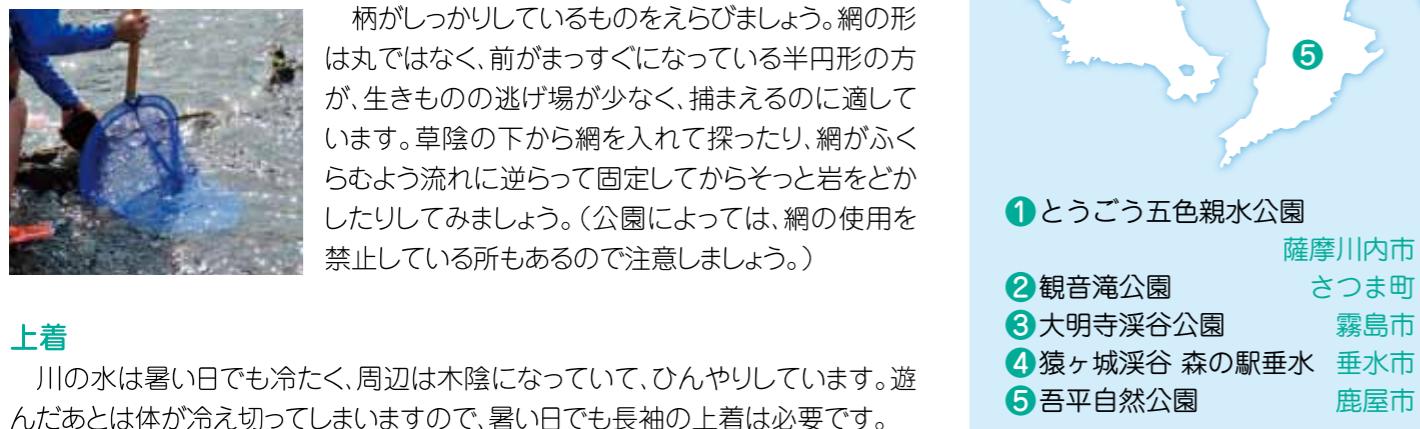
### あみ網



柄がしっかりしているものをえらびましょう。網の形は丸ではなく、前がまっすぐになっている半円形の方が、生きものの逃げ場が少なく、捕まえるのに適しています。草陰の下から網を入れて探ったり、網がふくらむよう流れに逆らって固定してからそっと岩をどかしたりしてみましょう。（公園によっては、網の使用を禁止している所もあるので注意しましょう。）

### 上着

川の水は暑い日でも冷たく、周辺は木陰になっていて、ひんやりしています。遊んだあとは体が冷え切ってしまいますので、暑い日でも長袖の上着は必要です。



①とうごう五色親水公園

薩摩川内市

②観音滝公園

さつま町

③大明寺渓谷公園

霧島市

④猿ヶ城渓谷 森の駅垂水

垂水市

⑤吾平自然公園

鹿屋市

## こんな生きものがいるよ

草が生い茂っている所や、流れの緩やかなところをのぞいてみよう



### 卵をもったテナガエビ、たくさんのかわいいエビ

エビの産卵は夏が盛り。秋には、生まれた小さなエビたちがたくさん見られる。はさみ脚が長かったら、テナガエビの子どもだ。



### すいせい こんちゅう 水棲昆虫たち

トンボのヤゴやカワゲラなどたくさんの昆虫もみつかる。ヤゴもいろいろな形のものがあるぞ。



### アリアケギバチ

薩摩半島に生息しているナマズのなかま。岩の下にはこんな生きものがくかれていることもある。



### カワムツの子ども

メダカのようにたくさん群れている小魚をくってみよう。体に黒い線が入っていたら、今年春から夏にかけて生まれたカワムツの子どもたちだ。上流域ではタカハヤの子どもたちが見られる。



## 安全第一で楽しもう

楽しい夏休みが終わり、季節は秋に移り変わろうとしています。まだ暑い日が続く秋の川は、春から夏にかけて生まれた生きものたちでもっともぎやかな季節です。しかし公園の中といっても、川には変わりありません。晴れても、前日に雨が降っていれば川の水かさは増え流れが急になっています。川は危険なところだということを認識し、大人の人と一緒に安全に、生きもの探しを楽しみましょう。

(柏木 由香利)

いるかの時間  
あさらしの時間

## アザラシのオスとメス



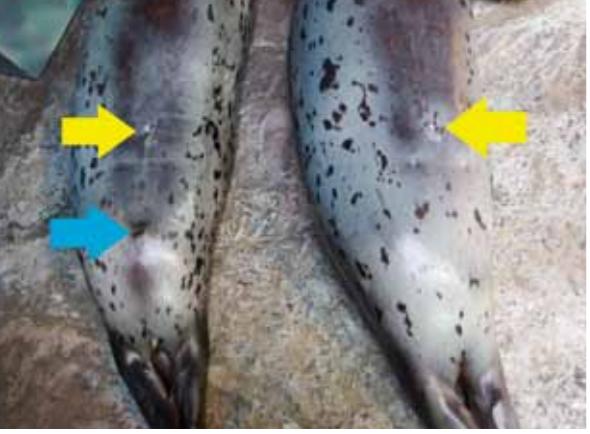
ゴマミ(左)とゴマタロウ(右)

かごしま水族館には2頭のゴマフアザラシがいます。オスのゴマタロウとメスのゴマミです。

みなさんはアザラシのオスとメスの見分け方をご存じですか?上の写真ではオスとメスを見分けることはできません。他の種類のアザラシでは、オスとメスで外見に違いがあったり、大きさが違ったりするのですが、ゴマフアザラシはある場所を見ないと判別できません。見分けるポイントは、「お腹側」にあります。アザラシのお腹を見てみると、穴が1つあるアザラシと2つあるアザラシがあります。前者がメス、後者がオスです。まずオスにもメスにも共通してある穴は、おへそです。アザラシは私たち人間と同じほ乳類ですので、お母さんのお腹の中にいるとき、赤ちゃんはその緒から栄養をもらっています。そして、オスだけにあるもう1つの穴には、ペニスが入っています。なぜ収納さ



メスのお腹側 赤で囲んだ所がおっぱい



お腹の穴 黄色矢印はおへそ 青矢印はペニス

ゴマフアザラシの繁殖期は4月ごろで、繁殖が可能になる年齢はオスが3~4歳、メスが3~5歳です。現在、かごしま水族館のオスのゴマタロウは4歳、メスのゴマミは2歳で、早ければ来年の春ごろには、ゴマミも繁殖が可能となります。2頭の相性もありますが、赤ちゃんアザラシが見られる日を楽しみにしてくださいね。(西村圭織)



# ここが みどりこころ

## 1階:マングローブ水槽



マングローブは熱帯・亜熱帯の海岸や河口、干潟などに生育する50種以上の植物をまとめて表す言葉です。潮が満ちると海から生える木のように見え、不思議な感覚を覚えます。日本には7種が生育し、そのうちオヒルギとメヒルギの2種が生育する鹿児島県は、日本でマングローブが自然分布する北限にあたります。



KINKO-BAY 錦江湾の  
なかまたち

## 70.キュウセン



錦江湾では貝がらがまじった荒い砂地の海底で、ベラのなかまであるキュウセンをよく見かけます。キュウセンは性転換をする魚としてよく知られており、子どものころは赤い色をしたメスばかりです。群れの中で体が大きく力が強い個体が現れると、体の色が徐々に緑色に変化してオスになります。キュウセンはダイビングをしていると近くに寄ってくることがあります。ダイバーが巻き上げる砂けむりの中にゴカイなどのえさがないかと、探しに来るのであります。

ダイバーをおそれない大胆なところがある一方で、とてもおくびょうな魚でもあります。採集してきたキュウセンを展示水槽に入れると、砂の中に潜ってくれてしましました。キュウセンは驚いたときや眠るときには砂の中に潜る習性があるのであります。

マングローブはふつうの樹木と違い、水分を海水から得ています。そのため、塩分対策として①根でろ過する、②葉の表面から排出する、③葉にためて落ち葉として捨てるなどのしくみを備えています。

当館ではそんなマングローブを水槽内に植えて展示しています。そこではマングローブの一種、ヤエヤマヒルギが、ぬかるむ泥でも体を支えられるタコ足状の奇妙な形の根を張っています。泥の上ではトビハゼが背びれを立てて威嚇し合ったり、ごろんと横になって体を湿らせたりしています。マングローブの落ち葉をアシハラガニやキバウミニナが食べています。落ち葉はえさとなるため、あえて掃除せず残すのが飼育のミソです。

マングローブ水槽をぜひご覧ください。じっくりと観察すれば、生きものたちの興味深い表情がきっと見えてきますよ。(丹羽裕介)





## この海藻は何色? ～海藻たちの色の不思議～

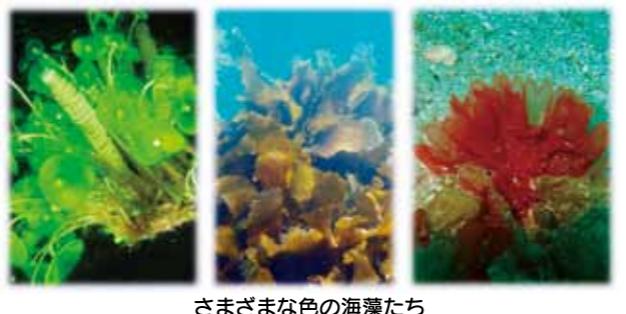
「海藻」と聞いて何を思い浮かべますか?味噌汁のワカメ、煮物のヒジキなど、身近な海藻ですが、その生きている姿を知っている人は意外と少ないようです。今回のアクアラボでは、私たちがよく食べる海藻たちの「色」に注目しました。

海藻は大きく3つのグループに分かれます。アオサなどの「緑藻」、ワカメやヒジキなどの「褐藻」、テングサなどの「紅藻」です。グループの中でも種によって少しずつ色が違うので、海藻が生える時期、海の中はカラフルに色づきます。ではなぜさまざまな色の海藻があるのでしょうか。

海藻は、太陽の光を使う「光合成」をして生きていますが、水中では深度によって届く光の色が違います。光の三原色(赤・青・緑)のうち、赤色の光は深いところまでしか届かず、続いて青色の光、緑色の光の順に深くまで届きます。緑藻は深いところに多く見られ、赤色の光をよく吸収する緑色の色素を多くもっています。



生きている時のワカメ



さまざまな色の海藻たち

逆に、深いところに多く見られる紅藻は、緑色の光が多く届くため、これをよく吸収する赤い色素を体にもつことにしたのです。このようにさまざまな色の海藻があるのは、それがくらす場所で効率よく光を吸収し、生きていく工夫だったのです。かごしま水族館の水槽にも、さまざまな色の海藻があります。たまには海藻にも注目して水槽をながめてみてくださいね。(堀江 謙)

## 【情報休憩コーナー】

「第30回国民文化祭・かごしま2015」開催記念 特別展示

## アートな海の生きものたち

平成27年10月10日(土)~11月30日(月)

国民文化祭とは、文化活動を盛んにするため毎年開催される国内最大の文化の祭典です。今年は鹿児島で10月31日(土)から11月15日(日)まで開催されます。海と深いつながりを持つ日本人の暮らしの中には、海の生きものを使った道具や芸術作品が数多く存在します。そこで、この文化の祭典の開催を記念して、秋の情報休



ウニ殻宝石箱

憩コーナーでは、海の生きものをモチーフや素材とした工芸品やアートな模様をもった生きものにスポットを当てた特別展示を開催します。

会場では、生き生きとイカを描く画家・宮内裕賀さんの作品や巻貝を染料として使う貝紫染め作品、真珠色に光る貝がらを使ったヤコウガイ細工など、美しい作品とその素材となる生きものの両方を展示します。他にもアートな生きものを探すスタンプラリーや、おいしいお茶とスイーツを味わいながら海の生きものを語る海カフェ「海の世界は美しい～アートな海の生きものを語ろう」、毎月10日の「いおの日イベント」を3倍楽しめる「いおいお祭」の開催など、これまでにない企画で皆さまをお待ちしています。秋の水族館でアートなひと時をぜひお過ごしください。(出羽尚子)

いろいろやりました!



### あかり 灯で夜を楽しむ水族館

7月18日から20日の3日間、「灯で夜を楽しむ水族館」を実施しました。今回初実施のこのイベントは、お客様に水の生きものの絵を描いていただき、それを仕立てて行灯にし、黒潮大水槽前に飾るというものです。

たくさんの行灯が並ぶ黒潮大水槽は、いつもとは違う雰囲気で多くのお客様の目を楽しませていたようです。



「シイラにエサやり体験」。太陽の光を反射して涼しげに輝くエメラルドグリーンの体はイルカ水路の風物詩です。



特別企画展アマゾン関連イベント「ピラルク」にエサやり体験。世界最大の淡水魚ピラルクの迫力ある食事の様子を窓近で体験しました。



「星に願いを」。笹の葉に願いごとを書いて飾りました。書いていただいた願いごとの中から133名さまの願いごとを叶えました。



毎月10日は「いおの日」。8月のいおの日は海上保安庁とともに保安庁の帽子を作ったり、金魚の帽子を作りました。



「磯の生きもの調査隊」。桜島に渡り、磯でたくさんの生きものに出会いました。



今年の夏はひと味ちがった「夏休みバッケヤードツアーア」。飼育員がそれぞれ自分の担当水槽バッケヤードを、飼育の裏話をまじえながらご案内しました。



### イルカ水路でイルカにタッチ開催

夏休み期間中、屋外のイルカ水路で「水路でイルカにタッチ」イベントを開催しました。

抽選で選ばれた20名の皆さまは、ふだんはトレーナーしか通ることのできない浮き橋の上の歩いてイルカのいるステージまで移動し、タッチを行いました。想像以上に揺れる浮き橋に悪戦苦闘しながらも、太陽の下でイルカを窓近で見ながら触る体験を楽しんでいました。



久しぶりに開催された「イルカと泊まろう」。イルカたちがゆったりと泳ぐ姿を見ながら、みんなで布団を敷いて寝りました。



「どきどきサメタッチ」。ネコザメやシロザメ、アカエイに触りました。



自由研究応援イベント  
**「ちりめんモンスターをさがせ!」**

ちりめんじゃこから見つかるモンスターの正体は何?  
調べて図鑑を作りました。



夜の水族館で楽しむ真夏のワインパーティ～鹿児島食材とワインの饗宴～



この夏のサマーナイトミニコンサートは3回。5万匹のカタクチイワシが舞い泳ぐ中、パッハのトリオソナタなどを聴きました。



潮風フェスタ関連イベント「さかなクンスペシャルトークショー」を開催。イラストを描きながら魚に関するクイズを出題し、盛り上がりました。



鹿児島市立科学館で開催された「青少年のための科学の祭典」にブース出展しました。ワークシートに記入しながらサメをじっくり観察してもらいました。

# いおワールド 通 信

## 「7代目ユウユウ」としてジンベエザメを搬入しました

「ジンベエザメが入っているよ！」平成27年8月3日の朝、目覚ましアラームより先に鳴った携帯電話から聞こえてきたのは眠気も吹き飛ぶ漁師さんの大声と吉報でした。入網した場所は大隅半島肝付町、志布志湾の南側に位置する高山漁協の定置網です。確認のため、網の中に潜ってみると全長4mのオスの個体でした。すぐに水槽には搬入せず、餌付けや飼育環境に慣れさせるため、翌8月4日に薩摩半島笠沙町の沖合に設置してある専用いけすまで輸送しました。鹿児島県を横断する輸送大作戦は9時間半にも及びました。その後、いけすでの約3週間のトレーニング期間を経て、8月23日に黒潮大水槽に搬入しました。水槽内にもすぐに慣れ、翌日には餌も食べ、経過は順調です。今後のユウユウの成長と世界最大の魚がやってくる鹿児島の海を黒潮大水槽ホールでゆったりと感じていただければと思います。

ユウユウは大きくなれば海へ返す、海からお借りしている生きものです。再び大海原へ元気で帰ってもらうためにスタッフ一同、より一層の健康管理に努めます。



海上いけすでトレーニング中のユウユウ 水槽に搬入時多くのお客様に迎えられました

## 特別イベント「第11回 海と地球の研究所セミナー 海の生きものー水槽から深海までー」「キッズアクアリウム」を開催しました。

8月11日、海洋研究開発機構 (JAMSTEC) と共に特別イベントを行いました。老若男女問わず楽しめるよう、一般向けの「海と地球の研究所セミナー」の他、子どもも楽しめる体験・工作イベント「キッズアクアリウム」も併催し、多くの来場者でぎわいました。

JAMSTECは神奈川県横須賀市に本部を置く「海と地球の研究所」です。映画やドラマにも登場する有人潜水艇「しんかい6500」や、地球深部探査船「ちきゅう」はご存知の方も多いかもしれません。

セミナーでは、JAMSTECの藤倉克則先生、鹿児島大学の山本智子先生より、浅海から深海までのさまざまな生きものの生態についてのお話がありました。水族館からは、深海生物の採集方法についても話をしました。

キッズアクアリウムでは水圧実験や無人探査機 (ROV) 操作体験、深海生物フィギュアづくりなどを通じて、JAMSTECはどんな研究を行っているのか、子どもたちが体験的に学びました。

ROVを操作する表情やセミナーで熱心にメモをとる子ども達の姿は真剣そのもの。きっと彼らの夢見る世界がそこにあったのでしょう。前を見据える瞳の奥には、研究者や技術者となって活躍する、彼らの輝かしき未来が放つ確かな光がありました。



### 編集後記

目の前にそびえる桜島の噴火警戒レベルが引き上げられ、緊張感が漂う中、毎年恒例のサマーナイト花火大会が中止となるアクシデントに見舞われた夏でした。桜島を軸に、鹿児島の観光面への影響は大きいものがあったようです。追い打ちをかけるように台風15号の直撃で、久しく経験しなかった激しい家屋の揺れに、夜も眠れないほどでした。

朗報もありました。昨年11月以来展示が途絶えていたジンベエザメ7代目ユウユウが皆様の歓迎の拍手を受けながら黒潮大水槽にデビューすることができました。今後の成長を皆様とともに見守りたいと思います。

多くの家族連れでぎわった夏休みも終わり、今は柔らかな日差しを浴びて百日紅の花が満開です。水族館はいつも通りの日常を取り戻したかのようです。9月1日鹿児島市は“桜島安心宣言”を発信しました。

(荻野)

